

令和4年度 第3回運営推進会議議事録

令和 4 年 8 月 30 日

事業所名	特別養護老人ホーム勝田三思園		
担当者		電話番号	017-763-0036
1. 開催日時	令和 4 年 8 月 1 日 (月) 時 分 ~ 時 分		
2. 開催場所	勝田三思園 (書面)	今年度開催回数 (3 回目)	
3. 出席者	書面送付	氏名	構成員の属性
	○		(松原町会長)
	○		(勝田第二町会長)
	○		(民生委員・児童委員、主任児童委員)
	○		(民生委員)
	○		(青森市中央地域包括支援センター)
	○		(入居者家族)
	○		(入居者)
			()
	事業所側		(施設長)
		(施設長補佐・介護主任)	
		(主任生活相談員)	
		(看護主任)	
		(主任管理栄養士)	
4. 活動状況の報告	6~7月までの入居者状況報告と行事等の報告		
5. 活動状況の評価	<p>・様々なイベント、流しそうめん楽しそうですね。にぎやかに出来る事、とても良いと思います。スタッフの皆さんは大変でしょうけど、これで入居者の皆さんは笑顔で過ごせるのでしょうか。(勝田第二町会長)</p> <p>・いつも実施報告を頂きありがとうございます。施設職員から利用者や施設の状況を確認できる良い機会として受け取っております。OJT等の体制も整っており感心しているところであります。(青森市中央地域包括支援センター)</p> <p>・6、7月の報告書、認知症の種類等読ませて頂きました。誰もが行く道本当に勉強になります。(民生委員・児童委員)</p> <p>・施設の各種の取り組みに感謝いたします。コロナ禍にあって大変な取り組みをしていることをぜひ地域の方々と共有できたらいいですね。勝田三思園に入居できて良かったと思っておりますので、職員の皆様方へは感謝しかありません。看取りへの取り組みは素晴らしいと思っております。(入居者家族)</p> <p>・手作りおやつおいしいです。人間食べれるっていうことは幸せですね。感謝感謝です。(入居者)</p>		
6. 主な議題	<p>①当事業所に行って欲しいこと、期待できることは何かありますか</p> <p>②その他</p>		

<p>7. 要望、助言等</p>	<p>①当事業所に行って欲しいこと、期待できることは何かありますか</p> <p>a) コロナ感染者が高止まりで推移している今、入居者様には4回目の接種が済んだとはいえ、今まで以上に注意して頂きたい。(民生委員)</p> <p>b) ACPや施設葬の取り組み等、新聞等への掲載もこれまでにあったと思います。興味はあるものの、なかなか話し合うきっかけがないというのが正直なところであります。ACPの普及・啓発を、今後もカードゲーム等で広げて欲しいと思います。(青森市中央地域包括支援センター)</p> <p>c) 早くコロナ禍が過ぎ去って、以前のように人々が大勢出入りできるようになることを期待します。まだまだ忍耐と辛抱が求められるような気はしますが、職員の方々の元気が、入居者の人達の笑顔に繋がると思います。充分おひとりおひとり自己管理されて、無理をされませんように。(入居者家族)</p> <p>②その他</p> <p>a) 入院をしたことにより、認知症状が急速に進行したように感じるということを聞きます。入居者の皆さんへの普段の声掛けが、いかに必要で大事と考えます。勝田三思園ではどのようにされているのでしょうか。(勝田第二町会長)</p> <p>b) ヒヤリハット11件、事故3件、2ヶ月で14件とは他事業所等に比べ、多いのか普通なのか。(民生委員)</p>
<p>8. 意見等への対応等</p>	<p>① 当事業所に行って欲しいこと、期待できることは何かありますか</p> <p>a) コロナ感染対策は継続しており、感染状況をみながら随時職員へ注意喚起を行っております。感染しない、させないよう、今一度感染対策の強化を行っております。</p> <p>b) ACPや施設葬については、法人全体で取り組んでおります。勝田三思園でのACPは入居時や状態変化時等、適宜開催し、家族しか知らない本人の話を語って頂き、その方の歩んできた人生について話して頂く事も大切にしております。実際に「もしもの時」が起こった際、話し合っていた方が、家族も悩まず、本人の意向を汲む結果に繋がると感じております。</p> <p>c) 感染者が増加しており、大勢の人が出入りできる日はまだまだ遠いのではないかと感じております。感染対策の為、職員一人一人行動には注意をもらいつつ、事業所としても職員の体調変化時には速やかに対応できるよう体制を整えております。</p> <p>②その他</p> <p>a) 施設は生活の場ですので、介護職員は毎日入居者と接し、どのような方であるかを把握しています。挨拶から日常会話等、その方に応じた声掛けを行っております。また日常の中で刺激を感じて頂けるよう、音楽を流したり、ユニットレクリエーションを企画したりと工夫もしております。</p> <p>b) ヒヤリハット件数は多ければ多いほど事故を防ぐ事に繋がりますので、少しでも「ヒヤリ」「ハット」したことは、そのままにはせずに「ヒヤリハット」として挙げております。職員間で情報共有することで何がヒヤリハットなのかを統一し、入居者の状況を知ることに繋がっています。当事業所としては、ヒヤリハットの段階で対策を講じ、事故を防いでいます。また事故に関しては、怪我等の大小、病院受診の有無に関係なく事故として報告し、その原因を分析し、今後の対応策を多職種で話し合っています。</p>
<p>9. その他特記事項</p>	